

■ 精密検査受診率向上に関するご意見のまとめ

受診率が向上しない理由		理由に対して考えられる対応策		令和7年度以降の 対応方針
カテゴリ	個別の意見	想定実施主体	個別の意見	
精密検査に関する 情報・理解の不足	● 関心が薄い、認識不足、理解不足、自覚症状がない、健康への過信 ● 持病によるものだろうからと自己判断をしてしまう ● 結果を見ていない、健康診断の結果を見ても重症度がわからない ● 精検の受診方法・受診先が分らない ● 以前、同じ項目で要精検となり、一度医師から問題ないと言われたことがあると、"毎度のこと"という認識で受診しないケースがある ● どのがん検診を受けたかよく分かっていない住民が多く、要精検となっても、重く受け止めず受診行動につながらない	県・市町村	● 精密検査方法、予約案内パンフレットを作成し提供する（検査結果に同封） ● 要精検者に対しては、検診結果と一緒に精検機関の一覧と予約が取れるQRコードと一緒に送付 ● がんの早期発見・治療や生存率等の周知徹底（検診実施機関や企業・事業所等にポスター掲示やパンフレット配布） ● 精密検査の重要性、早期発見なら低侵襲に根治可能なこと、精密検査の内容の3点について、住民が安易かつ簡便に情報を得られる仕組み文字では難しいので、動画など ● がん経験者の生の声を聞く機会の提供 ● 学校の教育HPVの予防の大切さを教育する ● 検診結果返却時：精密検査であれば、必ず精査が必要であることを伝える（必要時：みんなで学ぶやさしいがんの知識パンフレット等使用）登録精密検査医療機関一覧（胃がん・大腸がん）活用	○ 未受診の理由等の把握分析を行い、その内容を踏まえ効果的な啓発方法を検討
		検診機関	● 検診機関が精検の重要性を訴え、精検実施機関の情報を具体的に提供する ● ドックの会場で精密検査の重要性を示すショートストーリーの動画を流す ● 全ての検診機関が受診勧奨を行い、その実施状況を報告させ、県全体で共有する ● 検診結果返却時：精密検査であれば、必ず精査が必要であることを伝える（必要時：みんなで学ぶやさしいがんの知識パンフレット等使用）登録精密検査医療機関一覧（胃がん・大腸がん）活用	
精密検査に対する 不安・恐怖・羞恥心	● 検査結果が不安 ● 精密検査時の身体的苦痛が怖く、精検受診を避けてしまう ● 子宮・大腸など羞恥心を伴うものがあり受診に抵抗がある ● 大腸がん検診は便潜血検査のため、検診は受けやすいが様々な課題がある ・高齢のため、内視鏡検査を受診したくない ・以前受けた内視鏡検査の痛みが強かったため、受診したくない ・過去の精検で医師から「異常がなかったため、次回は○年後に受診しましょう」と言われ、要精検となっても受診しない ● 胃、大腸内視鏡検査は医師により手技に違いがあり不安が大きい。身体的な負担が大きいほど検査を避ける傾向がある	県・市町村	● 精密検査の重要性、早期発見なら低侵襲に根治可能なこと、精密検査の内容の3点について、住民が安易かつ簡便に情報を得られる仕組み文字では難しいので、動画など ● がん経験者の生の声を聞く機会の提供	○ 痛みを緩和する検査方法、女性医師のいる精検機関、土日に実施している精検機関などの現状を把握し、一覧表の表記を検討
		精検機関	● <u>乳がん、子宮がんは女性医師による検査を行う</u>	
精密検査にかかる時間 予約のとりにくさ	● 精密検査ができる医療機関がもともと少なく、更に減っているため、予約が取りにくい ● 内視鏡の精検ができる医療機関が少なく、予約が数ヶ月待ちになることもあり、危機感が薄れ、翌年度まで持ち越すこともある ● 日々の生活が忙しく、精密検査を受ける時間がない ● 精検のために病院で待ちたくない（待ち時間の長さ）	精検機関	● <u>日曜日や祝日での精密検査の提供</u> （毎週でなくてもよい）	
精密検査に係る費用	● 精密検査にかかる費用が高く、精検受診を後回しにしてしまう ● 検査費用が自己負担で、どのくらいかかるか分からないため	県・市町村	● 【一部市町村で実施中】がん精密検査費用助成：胃・大腸・乳・子宮・肝・肺がんの精検費用を5,000円を上限に助成 ● 精密検査対象者には必ず面接で結果説明、受診勧奨、助成制度の説明を実施	○ ご意見として今後の検討の参考
		県・市町村	● 状況によっては移動手段の支援などをする必要も必要	
運用面における課題 （市町村）	● 精検対象者の追跡ができていない ● 未受診者のリコールができていない ● マンパワー不足により、再勧奨などが集団、個別ともに難しく、次の検診を迎えてしまう。個別は医療機関に追跡までと仕様書で依頼しているが、医療機関により対応に差があり、再勧奨までは難しい ● 再勧奨では、医療機関から精密検査を要す説明を受けているが、本人の認識がなかったケースもある。電話確認しないと詳細不明なことも多く業務過多で、フォローが回りにくい状況 ● 受診者が精検依頼書の持参を忘れてしまい、市へ返信が来ない ● 精検受診調査を行うが、返信が得られない。また、返信が来ても本人が結果をはっきりと認識しておらず、未把握となってしまう	県・市町村	● 未受診者で結果報告が届かない人について、どこが、いつ、拾い上げをするのかを決める ● 要精検者の返却方法の検討 ● 仕様書や資料の見直し ● <u>精検受診調査をわかりやすい様式に見直し、返信しやすい工夫</u> ● かかりつけ医制度の推進 ● 精検受診未把握者に対して、受診状況や未受診の理由を確認するアンケートを実施し、状態把握に努めるとともに、個々に合わせた受診に向けた支援を行っていく ● 【一部市町村で実施中】精密検査の受診状況を回答するためのQRコードが掲載したものを郵送し、電話またはインターネットでの回答を受け付ける ● 【一部市町村で実施中】委託医療機関への指導（5月病院巡回時）	○ 市町村・検診機関と共に、返信しやすい精密検査結果報告書について検討 ○ 各市町村・検診機関が取り組んでいる好事例を共有 ○ 精検機関を対象とした説明会を開催し、統一運用の制度を周知 ○ 検診機関ごとの精検受診率、精検機関からの返信状況等の分析
		検診機関	● 検診結果の説明時に精検の予約ができる仕組み ● 検診後の結果で、「再診が必要」「要精密検査」と書いてある書類が紹介状扱いとなり、受診につながるケースが多い ● できるだけ早い検診結果の決定と関係部署への連絡 ● <u>全ての検診機関が集まり、検診機関として行うべき、受診率向上策を検討する</u>	
		精検機関	● <u>精検機関が検診に対する理解を深めること</u>	
職域に関する課題	● 企業・事業所の無関心 ● 個人情報保護の観点から追跡が困難 ● 労働安全衛生法上、労働者に精検受診させることは義務でなく、受診勧奨に止まっている ● 産業看護師がいる事業所がごく一部で、個人情報の観点から事業主に受診結果の情報提供を行い、受診勧奨や指導を依頼できない ● 精検の費用負担は労使で決定することとなっており、個人負担としている事業所が多い可能性	県・市町村	● 事業所に精検検査結果の報告を義務づける受診者数が一定数を下回る場合には罰則を与えるなどの厳しい対応をとるとともに、受診者数が一定割合を超えた場合には何か特典を与えるなど「飴と鞭」両方に対応する ● 個人情報に留意をしつつ、精密検査受診の有無のみの報告を義務づける ● 職域検診でも住民検診における保健師のように受診勧奨する存在がいればいい ● 中小企業の職域検診の精度管理をする方法の検討 ● 人事労務担当への働きかけを行い、受診できる環境整備 ● 特に大腸がんの精密検査受診率が低いため、健診受診後の4箇月に加え6箇月後にも本人宛に受診勧奨をしている(本年度から見やすいよう通知でなくチラシを作成し送付)	○ 厚生労働省が示す「職域におけるがん検診に関するマニュアル」の周知を図り、適正な受診勧奨が行われるよう検討 ○ 職域における検診状況の確認を検討
		県・市町村		